

「旅行用水彩画箱の自作 (3)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

アトリエで水彩画を描く場合は、スケッチブックも画材も余裕をもって広げることができます。しかし外出先、旅行先の屋外では、どちらも置き場所に困ることがあります。というよりも、置き場所はないことのほうがずっと多いと思います。

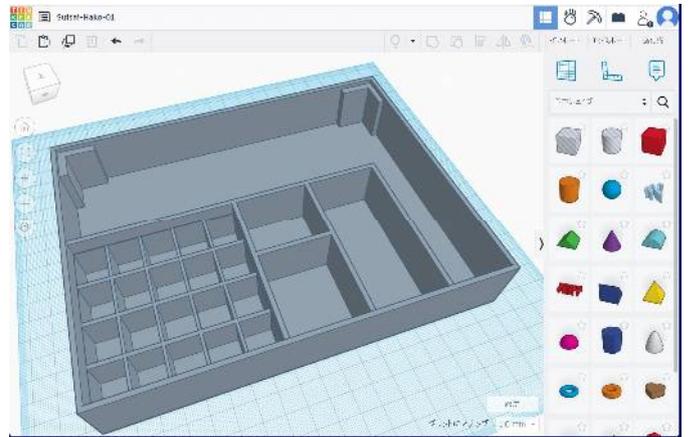


今回自作した「新水彩画箱」を、三脚に取り付けられるようにしたのも、この問題点を解決したかったからです。私の場合、旅行先でも天体写真を撮影することが多いので、小型の三脚は必ず持参します。それを水彩画箱にも流用するのです。



設計通り、蓋部分を裏返して本体上部に取り付けると、F0サイズのスケッチブックがぴったり収まります。三脚のヘッドで画箱の角度を調節できるのも大きな利点です。人によって「描きやすいスケッチブックの角度」がちがうからです。私の場合、水平か少し手前に倒す程度が、一番描きやすいように思います。

この画箱を製作後、しばらくはいつもかばんに入れて持ち歩いていました。しかし旅行先ならともかく、日常的に携帯するには、少し大きく重いことがわかりました。そこで「日常携帯用の画箱」も、新しく製作することにしました。今度は、桐板は使用せず、すべてプラスチック製にしてみました。今「話題」の「3Dプリンター」を使つての製作に挑戦したのです。



私はまだ3Dプリンターを使い始めたばかりの初心者です。しかし、データはWEB上で簡単に作成でき、結構複雑な絵の具の仕切りも含めて、20分程度で完成しました。画面上でさまざまなパーツを組み合わせて「プラモデル」を組み立てるような感覚でした。画面上で回転させて、さまざまな角度から確認しながら作図が可能です。できあがったデータを3Dプリンターに転送するだけで、その場で造形が始まります。データさえしっかりしていれば、金型も接着も不要です。しかも、同じものをいくつでも製作可能なのです。



出来上がったものは完全に設計図通りの仕上がりでした。当たり前なのでしょうが、実に感動しました。少しでも小さく軽くする為に、三脚につける仕組みは省略しました。この大きさ、重さなら常にかばんに入れておいても邪魔にはなりません。まさに、普段使いの「筆箱」ができあがりました！！